

1998年度文化庁芸術祭優秀賞受賞作

A.I.・H.A.L.I. + 小原延之 共同製作

mine

作・演出 / 小原延之

2007年2月1日(木)~4日(日)
アイホール



mime

cast

信平 エステベス
山口 晶子
中山 治雄
田村 彰規
奥野 友理奈
茨木 薫
伊藤 泰二
中川 晴樹 (ヨーロッパ企画)
富永 茜
雪之 ダン
武田 暁 (魚灯)

日時: 2007年2月1日(木)~4日(日)



※開場は開演の30分前。開演の1時間前より受付を行います。
※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

場所: **アイホール** (JR伊丹駅前)
〒664-0846 兵庫県伊丹市伊丹2-4-1 TEL.072-782-2000



料金: 前売 2,500円 当日 3,000円
学生&ユース(25歳以下) 1,800円
(当日受付にて年齢を証明するものを提示。アイホールで予約のみ取扱い)
<日時指定・整理番号付自由席>

チケット取扱い: 電子チケットぴあ
0570-02-9966 (Pコード: 373-507)
0570-02-9999 (オペレーター対応)
アイホール 072-782-2000

お問い合わせ: アイホール 072-782-2000
aihall@juno.ocn.ne.jp
http://www6.ocn.ne.jp/~aihall/

staff
舞台監督: 岡 一代 (TANCI 池田意匠事務所)
舞台美術: 池田ともゆき (TANCI 池田意匠事務所)
音響: Alain Nouveau
照明: 葛西健一 (GEKKEN staffroom)
宣伝美術: 東 學 (188)
宣伝写真: 伊東俊介
衣裳: 舟橋真鳥 (iroNic ediHt DESIGN ORCHESTRA)
演出助手: 福田尚子

協力: 魚灯、ヨーロッパ企画
主催: 伊丹市 / (財)伊丹市文化振興財団
企画製作: アイホール

どちらかという悲劇を書くし、よく当て書きをするタイプなんです。当て書きとは、作品に出演する俳優の特性に合わせて本を書くこと。さらに僕の場合、劇場の空間や上演される季節、社会的な状況を取り入れることも勝手に当て書きとしていきます。常に、取り巻く環境をひたすら見て作品に取り込む傾向があり、逆に言えば、何も無ければ何も書けないということになってしまいますが、ま、そこは人で芝居は作れないということも勘弁。で、ですね。この度、AI・HALLさんと一緒に芝居をつくる機会に恵まれ、ずらっと魅力的な役者さんに集まっていたのですが、とても演劇指数の高い劇場と役者さんのお膳立て。これはわたくし的には申し分ありません！という状況なのですが、いかんせん社会的状況がよろしくなく、僕の悲劇体質がそう書かせるのでしょうか、今は戦後ではなく戦前じゃないの？と、何度か考えても悲劇のプロットが立ち上がってしまっ。

やれ核武装論、やれ改憲問題、まともだとは思えない。拉致問題を解決しようとする姿勢さえも政治臭く感じさせるこのムード。これは一体なんなのだ。しかも、このムードに対して率直に意見してみたところで、ただのイイ子ちゃんのレッテルを自ら貼ってしまうことになるのがオチなんだ。

でも知らんぷりするのにも本意じゃない。それに、僕は部分的にとっても頑固なのだ。それに、与えられた環境が必然だと思いつく。才能だけはあるような気がしている。

今回は、演劇指数の高い劇場と役者さんと、とてもやっかいなムードに当て書きをしてみるのは、

小原延之

1968年、福井県生まれ、1988年、関西の老舗劇団、そとこまちに入団。
1991年に演出家デビュー。
2001年、7代目座長に就任、同時に戯曲を執筆するようになる。
2005年「丈夫な教室」の上演を期に退団し、以後フリーとして活動。

